

旭

印刷を支え加工を活かす

生産管理本部
取締役生産管理本部長

井上肇

旭紙工株式会社の生産管理本部で
取締役を務めている井上肇さんに、こ
れまでの経歴と仕事への思いをお聞
きしました。



— 今のお仕事について教えてください。

受注した案件の管理、商品の入出荷の管理、業務委託の管理と、名前の通り生産にまつわる全ての管理業務を行っている部門です。私はそこでマネージャーを務めており、まだまだではありますが、部員たちのマネジメントに励んでいます。

ただ、最近は部外の業務にも関わっています。社長から新工場の設立のミッションを受け、2019年初頭まで本務から離れていたんです。その間は、部下たちにも苦労をかけたと思いますが、私がいなくともきちんとやってくれていたので、本当にいい部下に恵まれたと思いましたね。

— 工場は完成したのでしょうか。

はい。2019年1月末には機械の配置なども決まり、おおむね完成しました。稼働させたばかりで問題のある箇所もあるので、これからは仕事の流れや機械のレイアウトなどを調整し、さらに効率化を進めていきたいと思っています。

— 生産管理部門のトップについて、着手したいことは。

人材が不足している状況を何とかしたいです。今、総務部の人たちが採用と育成に注力してくれていますので、生産管理本部としては機械のアップグレードをしていきたいですね。かなり古い機械が今もまだ使われているので、機械を新しくすることで、少しでも作業員の負担を軽減していきたいです。

— 思い出に残っている仕事はございますか。

折り部門の仕事が思い出に残っています。当時はまだ住吉専務がご在職中で、私は専務の後継者として色々と仕事を教わっていました。とはいえ、

◀新工場1階

before



新工場1階
after

— 反対に、何か挫折経験はございますか。

それも、折り部門のときのことですね。品質の許容範囲を見誤り、お客様にご迷惑をおかけしてしまったことがあります。どこか引っかけかりを覚えていたものの、「部長にも確認しても

専務は「見て覚えろ」というスタンスの方だったんで、どちらかというと、技術を盗んだと言う方がしっくりきますが、

専務は人をほとんど褒めることがなく、仕事についてはとても厳しい人でした。特に私は何でも器用にできるタイプではなかったので、最初の頃はいつも怒られていましたね。でも、偏屈な人間なもので「謝りたくない」という気持ちが強くて、失敗しないように仕事を進めていったら、ちよつとずつ専務からお小言をいただくことも減っていききました。中綴じ部門を立ち上げる際には、「自分としては、折りと中綴じの後継者は井上だと思っていて、ここまで育ってくれて、頼りにしている」とお声がけいただけくらいに信用してもらえました。嬉しかったですね。

— その経験から、何か学ばれたことはございましたか。

折りの仕事では、基本的にお客様に確認していただきながら、作業を進めていきます。だから、お客様の判断に品質の基準を委ねている部分もあるのですが、「大丈夫だ」と自信が持てるものを作らなければいけないと、強く思いましたね。

— 今後の目標を教えてください。

現在、旭紙工はかなり厳しい状況にあり、それを打破できていない私が偉そうには言えないのですが、「みんな一緒に幸せになりたい」と思っています。幸せの定義は人によって異なりますが、この広い世の中で、偶然会社の同僚になったのだから、社員の皆さんには、退職するときに「ここで働いてよかったな」と思ってもらいたいです。

さまざまな経験を通じ、大切なことを学んできた井上さんなら、きつとその目標を達成できることでしょう。これからも井上さんは、社員の幸せのために走り続けます。



▲2016年ドルッパ展示会にて

企業情報

- ◆ 創 立 年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年 商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

The FOCUS

新工場 断裁部門 編



私が
紹介します

断裁部門 責任者
丸山 純平さん



職場自慢

メンバー全員が一生懸命仕事に取り組んでくれるので活気あふれる職場かなと思います。部門は現在 12 名で運営していて、お互いに言いたいことが言い合える環境ですね。仕事終わりにご飯に行くこともあり、コミュニケーションがしっかり取れている点が強みです。



工夫していること

月に一回、部門ミーティングを開いています。それぞれが日々感じていることや改善できる点などを共有して業務がスムーズに行えるように工夫しています。具体的にはクレーム内容の共有やそれに対する改善策の提示、さらに日頃の業務内容のやり方について確認をしています。



業務内容

断裁業務を行っています。印刷物のうちいらない部分を切り取り、製品をきれいに仕上げる仕事です。断裁は最初の工程でありながら一度刃をおろしてしまうとやり直すことが出来ない仕事なので、全体の工程を把握しつつ効率的に仕事をするのが求められます。現場で一緒に働く仲間にもその部分を徹底して教えるように意識していますが、丁寧かつ効率的に作業することの難しさは常に感じているところですね。

断裁部門

丸山さんご自身について

■ 責任者になったの所感

現在責任者となって二年目なのですが、まさか自分がなれるとは思っていませんでした。辞令をいただいたときも少しドラマチックで、「明日から責任者や!」と前日に言われました(笑)。嬉しいというよりも驚きのほうが大きかったですね。もともと周りを見ることが得意ではなかったのですが、一方でやってみたいという思いもあり複雑な気持ちだったというのが正直なところです。

影響を与えてしまいます。その点を意識して作業にあたってもらえればと思います。また断裁業務は自分のスピードで作業を行うことが出来ます。一時間に一回でも多く断裁の作業をしていただければ達成できる仕事量は多くなるので、効率的に作業することを念頭に置いて取り組んでもらえたら嬉しいです。

■ 仕事のこだわり

誰よりも良いものを作ろうという意識で業務に取り組んでいます。どれだけきれいに切れたか、どれだけ早く切れたかという部分がやりがいにつながっていますし、「この人が切ったからやりやすい」といつてもらえるような仕事ができればと思っています。

自分が率先して現場に入り、リーダーとして目標とされる存在になりたいですね。

■ 責任者として指導時に心がけていること

基本的には分からないことを教えるということになりますので、丁寧に分かりやすく教えるということを意識しています。口で伝えるだけではなくなかなか難しい部分もあるので、想像しやすいように作業の工程を伝えるなどの工夫をしています。

■ 部門の仲間に大切にしてほしいこと

一番はミスをしてほしくないということです。断裁のミスは取り返しがつかないため、一回のミスが次の工程に大きな

彌益 匠太郎さん



入社六年目で、今後の成長を期待している社員の一人です。まだまだ教えてもらう側で勉強中なのですが、これから人を教えていく立場になってもらえると全体の作業効率も上がりますし、部門も活気づくのではないかなと思います。真面目でシャイな性格ですが一生懸命仕事に取り組む姿勢が非常に素晴らしいなと思っています。彌益くん、なにか目標を見つけ、今後部門を支える存在になってください!

断裁部門

活躍している社員

玉岡 和範さん



ベテランの社員さんで、夜勤のリーダーとして非常に信頼をおいている方です。私が入社したときに現場の責任者をされていた方なので、部門の運営の仕方や業務などに精通しており、頼りにしている存在です。玉岡さん、いつも助けていただきありがとうございます。私自身まだまだ慣れない部分も多いですが、今後共他のメンバー含めご指導いただきますようよろしくお願いします。